令和 3 年度

社会福祉法人清明会 事業報告

社会福祉法人清明会

理事長 小口 国之

提出:令和 4 年 6 月 8 日

承認:令和 年 月 日

清明会本部

1. 運営事項報告

ア. 理事会

第1回理事会

日時 令和3年5月21日(金) 提案書郵送により決議の省略を行う
提案書 理事:小林史幸 笠原新太郎 名取孝三 小林良光 大島良彦
確認書 監事:春日俊介 中島宏光

提案事項

議案第1号 令和2年度事業報告及び2年度計算書類等の承認
議案第2号 清明会福祉充実計画(令和元年度～令和5年度)変更点の承認
議案第3号 清明会経理規定・経理規定細則の一部改訂(案)承認
第4号議案 定例評議員会招集について
その他報告事項
監事2名 確認書により確認
理事5名 同意書により全議案全理事同意

第2回理事会

日時 令和3年12月15日(水)
場所 しらかば園日中活動棟会議室
出席者 理事:小林史幸 笠原新太郎 名取孝三 小林良光 大島良彦
監事:春日俊介 中島宏光

決議事項

議案第1号 清明会給与規程の一部改訂(案)の承認
議案第2号 共同生活支援事業部運営規程の一部改訂(案)の承認
議案第3号 しらかば園運営規程の一部改訂(案)の承認
第4号議案 令和3年度第1回補正予算(案)の承認
第5号議案 清明会定款の一部改訂(案)の承認
その他報告事項

第3回理事会

日時 令和4年3月23日(水) 提案書郵送により決議の省略を行う
理事:小口国之 小林史幸 笠原新太郎 名取孝三 小林良光 大島良彦
監事:中島宏光 春日俊介

提案事項

- 議案第1号 就業規則一部改訂(案)の承認
 - 議案第2号 給与規程の一部改訂(案)の承認
 - 議案第3号 教育訓練・資格取得支援規程(新案)の承認
 - 議案第4号 令和3年度第2回補正予算(案)の承認
 - 議案第5号 令和3年度内部監査報告
 - 議案第6号 令和4年度事業計画書(案)の承認
 - 第7号議案 令和4年度当初予算(案)の承認
 - 第8号議案 第3回評議員会の開催について
- その他報告事項
- 監事2名 確認書により確認
 - 理事5名 同意書により全議案全理事同意

イ 評議員会

第1回評議員会

- 日時 令和3年6月30日(金) 提案書郵送により決議の省略を行う
- 評議員:米山亘樹 久保泰彦 五味昭二 森山誠 小口浩義
織田昭雄 小林市子 矢島かつ子
- 監事;中島宏光 春日俊介

提案事項

- 議案第1号 令和2年度事業報告並びに決算報告の承認
 - 議案第2号 清明会福祉充実計画の承認
- その他報告事項
- 監事2名 確認書により確認
 - 評議員8名 同意書により全議案全評議員同意

第2回評議員会

- 日時 令和3年12月24日(金) 14時00分~15時00分
- 評議員:米山亘樹 久保泰彦 五味昭二 森山誠 小口浩義
織田昭雄 小林市子 矢島かつ子
- 監事;中島宏光 春日俊介

決議事項

- 議案第1号 清明会給与規程の一部改訂の承認
- 議案第2号 生活支援事業部運営規程一部改訂の承認
- 議案第3号 しらかば園運営規程の一部改訂の承認
- 議案第4号 令和3年度補正予算の承認

議案第 5 号 清明会定款第 29 条の一部改訂の承認

その他報告事項

第 3 回評議員会

日 時 令和 4 年 3 月 28 日(月) 提案書郵送により決議の省略を行う

評議員:米山亘樹 久保泰彦 五味昭二 森山誠 小口浩義

織田昭雄 小林市子 矢島かつ子

監事;中島宏光 春日俊介

提案事項

議案第 1号 令和 3 年度第 2 回補正予算の承認

議案第 2 号 令和 3 年度内部監査報告

第 3 号議案 令和 4 年度清明会事業計画、当初予算の審議

その他報告事項

監 事 2 名 確認書により確認

評議員 8 名 同意書により全議案全評議員同意

2.事業推進に関する報告

諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター事業委託契約締結(国)

4 月 1 日 // 運営事業委託契約締結(長野県)

5 月 18 日 定款第 11 条に基づく令和元年度監事監査実施(監査員 中島監事)コロナ禍に配慮し経理監査のみ実施

5 月 24 日 第二富士見町GH着工

6 月 21 日 資産変更登記

6 月 25 日 技能実習生受入契約

8 月 4 日 特定技能実習生選考面接(2名)オンラインにより

9 月 1 日 第二富士見町グループホーム内覧会

9 月 9 日 第二富士見町GH竣工引渡

10 月 1 日 技能実習生 1 名就業開始

10 月 14 日 第二富士見町GH不動産登記完了

10 月 21 日 第二富士見町GH家屋評価実施(富士見町)

10 月 21 日 岡谷労働基準監督署立入検査

11 月 1 日 ベトナム人技能実習生受入 1 名就業開始

12 月 28 日 定款変更登記承認(資産の追加)

1 月 20 日 日清医療食品食材値上げに伴う覚え書きの締結

- 2月4日 厚生労働省による災害模擬訓練実施(しらかば園)
- 2月17日 すわーくらいふ精算監査実施 長野労働局
- 2月25日 清明会内部経理監査実施 監事:五味評議員
- 1月15日 ベトナム人実習生受入契約締結
- 3月31日 諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター事業完了報告、事業報告提出
(長野労働局・長野県)

3. その他報告事項

- ・ 幹部会議(理事長・施設長・各部長)毎月開催 清明会本部
担当部署の活動状況及び経過報告、懸案事項の検討、調整を行う。
- ・ 人事考課制度による人事評定実施
- ・ 労働基準法第36条・64条労使協定締結 提出
- ・ 職員のストレスチェックの実施と報告書の提出
- ・ 施設サービス点検調整委員会12回開催 利用者、職員からの聴き取り実施、
- ・ 定款の一部改訂(資産の追加)
- ・ 給与規程の一部改訂
- ・ 就業規則の一部改訂
- ・ しらかば園運営規程の改訂
- ・ 共同生活支援事業部運営規程の改定
- ・ 教育訓練・資格取得支援規程制定

しらかば園 支援部

重点的取り組みについて

(1) 利用者さんの高齢化に向けた支援の整備とコロナ禍での支援の実施

- ①日々のバイタルチェックは確実に行え、救急搬送は昨年度よりも大幅に減少した。
バイタルに表れない体調変化に中々、気付かず重症化してしまう事が見られ、日頃からのご利用者とのコミュニケーション、表情観察の重要性を感じた。
- ②ご利用者の体調不良時、食事を詰ませた際など速やかに対応できることも増えた。医務部、保健委員会とも連携し救急法訓練も実施した。
- ③職員会議、主任会議、支援会議等で意思決定支援の研修を実施。
軽度のご利用者には個別支援計画の説明や写真等での意思確認は実施できてきた。半面、重度のご利用者についての意思確認は中々、進んでいないが、研修にて表情、声の調子、選択性、視覚を駆使する等、ご本人の観察ポイントやアセスメントの実施方法等、特性の理解を深められるように研修を行った。
- ④・県内の警報レベルに応じて外へ出て体を動かす、棟内イベントやOTにてレクリエーションプログラムを行った。感染対応フローも感染状況、ワクチンの接種状況に応じ、対応を緩和した。
 - ・もみじ祭は今年度も中止となり、各棟秋祭りを実施。お祭りの様子を写真に撮り、額に入れて保護者へ送付した。
 - ・一部のご利用者にコロナ禍の単独外出に不満を訴える方がおり、根気よく説得するとともに、希望を聞き代理購入を実施した。
- ④・今期、高齢のご利用者の転倒による骨折事故が増加した。高齢化によるADLの低下も見られ各棟夜勤者以外の夜勤者1名が必要な時間に必要な棟の応援を行う事とした。
 - ・PTで退院後の歩行状況の相談や身体機能維持、向上を目指しアドバイスを頂いた。
 - ・STにおいては食形態や姿勢の見直し、嚥下状況等、気になる利用者への相談を行った。誤嚥性肺炎に至る方も見られたが、以前より減っている。

(2) 事故減少及び丁寧で確実な支援の実施

- ①昨年度の事故・ヒヤリハットの原因の多い内容について「事故削減のために」を各棟に貼る、読み合わせを行った。
- ②毎月のヒヤリハットの内容、事故内容を主任会議で再検討し周知した。
- ③ヒヤリハット提出への意識は高まっている。半面、同じ事案が何度か起きたが、ヒヤリハットの提出が無く、事故に至ってしまったケースもあった。
- ④服薬に関する案件、高齢ご利用者の転倒による骨折事故が増加した。
令和3年度 ・事故報告 20件 ・ヒヤリハット報告 52件

令和3年度 事故・ひやりはっと報告

種別	事故	ひやりはっと	死亡	通院・入院	家族への連絡
転倒・転落	2	16		1	1
骨折・打撲・捻挫	5	1		5	5
外傷・裂傷・縫合	1	6		1	1
誤嚥・誤飲・窒息	3	1		3	2
異食	1			1	
無断外出	1	3			
把握・確認不足		5			
火傷		1			
感染					
誤薬	3	2			2
未投薬・落薬	3	5			
薬未チェック		1			
配薬ミス	1	4			
薬の管理ミス					
介助ミス					
金銭（品物の持ち出）					
破損・紛失・非常ベル		3			
利用者間トラブル					
発作					
報・連・相ミス					
送迎ミス		1			
その他		3			

<発生場所件数>

居室	デイルーム	廊下	階段	トイレ	食堂	風呂場	体育館	支援員室	園外
19	14	5		4	1	6		3	5
外出先	公用車	棟流し	帰省中	医務室	GH	洗濯室	LS	玄関	その他
		2		5	5	1	1	1	

<事故・ひやりはっと発生場所>

転倒・転落	骨折・打撲・捻挫	外傷・裂傷・縫合	誤嚥・誤飲・窒息	異食	無断外出	把握・確認不足	火傷
デイルーム 5	デイルーム 1	デイルーム 2	デイルーム 2	居室 1	園外 2	廊下 2	風呂場 1
居室 6	居室 2	居室 2	居室 2		玄関 1	洗濯室 1	
食堂 1	風呂場 1	トイレ 1			居室窓 1	GH 1	
園外 3	トイレ 1	GH 2				居室 1	

GH1	廊下1						
浴室2							
感染	誤薬 (誤使用)	未投薬 落薬	薬未チェック	介助 ミス	金銭	破損・紛失 非常ベル	利用者間トラブル
	デイルーム3	デイルーム1	GH1			居室2	
	居室1	支援員室2				園外1	
	トイレ2	廊下2					
		棟流し2					
発作	報・連・相ミス	配薬ミス	薬管理ミス	自傷	送迎ミス	その他	
		医務室5			LS1	居室1	
						風呂場2	

<時間帯別件数>

	夜間	～8時30分	～12時	～17時	～21時
事故	3	3	5	3	6
ひやりはっと	2	9	14	21	6

<曜日別件数>

	日	月	火	水	木	金	土
事故	5	2	2	2	1	4	4
ひやりはっと	5	9	7	6	4	14	7

<月別件数>

事故				ひやりはっと			
4月	6	10月	1	4月	4	10月	5
5月	1	11月		5月	2	11月	7
6月	2	12月	2	6月	6	12月	3
7月	2	1月	0	7月	4	1月	5
8月	0	2月	1	8月	7	2月	4
9月	2	3月	3	9月	5	3月	0

考察

- ・転倒は年々、増加傾向である。ヒヤリハットの件数や骨折を伴う事故も増えている。日々、体を動かし身体機能の維持、向上へ目を向け、棟の再編成を行い、見守り環境等の検討も必要である。PTでの相談も重要になっている。
- ・依然薬に関するヒヤリハット・事故報告が多い。大部分は確認がマニュアル通りにできていない事が原因にある。なぜ確認が疎かになってしまうのか、確認を確実にを行うにはどうすべきか職員の意識改革及び検討が必要。

- ・50代のダウン症のご利用者の身体的、認知的な急激な変化も見られてきている。ご利用者の日々の変化に迅速に対処する必要がある。

(3) 支援部主任会議の実施

- ①1年間、更なる高齢化に向けた棟の再編成、GH移行利用者の検討を中心に実施。
第二富士見町GHは令和4年3月15日よりご利用者3名（定員6名）にてスタートしている。
- ②研修はオンライン研修・職員会議・主任会議・支援会議にて実施
- ③各棟の困りごとの相談
 - ・職員間での業務に対する意識の差がある（棟会議で検討）。
 - ・夜勤職員の業務の改善（以前からいた西棟の夜勤者2名のうち1名を各棟の応援に行けるようにした）
 - ・棟の再編成についての相談。
 - ・男性棟で男性用便器をもう一つ欲しい。
 - ・服薬マニュアルの統一をしたい。（移動しても変わらない部分は統一しておく）

(4) 職員育成

- ①全支援員・介助員対象にサポーターズカレッジにての研修
 - ・「知的障害者とは」・「理念とは～理念の意味役割～」・「リフレーミング」について
- ②職員会議
 - ・今年度は虐待防止体制の努力義務の年にあたり、虐待研修は資料を使い、職員会議等で実施した。
 - ・虐待防止チェックリストにて職員個々の人権意識強化に努めた。
- ③支援会議研修
 - ・「支援上の記録の書き方」（保護者との記録・ケース記録・ヒヤリハット・モニタリングについて）
 - ・「高齢化に伴う変化と身体的自立」
（自立支援介護と身体的自立・身体的自立の4要素、水分、栄養編・身体的自立へ今すぐ行う取り組み）
 - ・「意思伝達の苦手な障がい者のアセスメントと評価」
（自己決定・意思決定支援へのアセスメント・個人とそれを取り巻く世界全体のアセスメント）
 - ・てんかん発作の介助について
 - ・主任中心に個別支援計画の作成手順の研修を行う。

令和3年度 Zoom 研修一覧

日時	出張者	要件	場所
5月31日	内藤	長野県知的障がい福祉協会実習担当者会議	Zoom
6月30日	佐藤	特定給食施設等食品衛生講習会	Zoom
8月6・18・19日	齋藤	長野県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修	Zoom
8月～11月	植松・内藤	障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策研修	Zoom
8月30・31日	中山晃志	令和3年度強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）	Zoom
10月6日	佐藤	新型コロナ発症時の施節・食事対応について	Zoom
10月28日	中山晃志	令和3年度強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）	Zoom
10月30日	内藤	「とっさの対応を学ぼう」	Zoom
11月12日	施設長・五味	第42回長野県知的障がい福祉研究大会	Zoom
11月24日	白鳥	令和3年度南信支部職員交流研修会	Zoom
12月7日	植松	令和3年度社会福祉施設等における感染症発生及び拡大防止等に係る研修会	Zoom
12月17日	施設長・植松・内藤	障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策研修 「巡回訪問」 事前にビデオ撮影	Zoom
1月26日	施設長・内藤	令和3年度障がい者支援施設部会・研修会	Zoom
3月11日	猪越・内藤	「障害者支援施設における高齢・重度化への対応を考える」 ～事業での実践を通じて～	Zoom

サポーターズカレッジ研修

日時	内容	出席者
7月16日（金） 支援員研修	「知的障害者とは」 「理念とは～理念の意味役割～」 リフレーミングについて	中山仁・保坂・池田
8月10日（火） 支援員研修	「知的障害者とは」 「理念とは～理念の意味役割～」	樋口・藤森・中山晴
8月19日（木） 主任研修	「知的障害者とは」 「理念とは～理念の意味役割～」 リフレーミングについて	内藤・池本・米谷・安川・齋藤・植松・佐藤
8月24日（火） 相談員研修	「知的障害者とは」 「理念とは～理念の意味役割～」 リフレーミングについて	猪越・五味・飯島・齋藤
9月14日（火）	「知的障害者とは」	松本・小池

支援員研修	「理念とは～理念の意味役割～」 リフレーミングについて	弘・山田 城・有賀沙、白川
9月16日(木) 相談員研修	～障がい者との関係構築～	猪越・五味・飯島
9月22日(水)	「知的障害者とは」 「理念とは～理念の意味役割～」 リフレーミングについて	明美・有賀貴・清水
9月23日(木) 主任研修	～障がい者との関係構築～	内藤・池本・米谷・安川・ 齋藤・植松・佐藤
10月5日(火) 支援員研修	～障がい者との関係構築～	田中・岩波・清水・窪田
10月12日(火) 相談員研修	～障がい者との関係構築～	猪越・五味・飯島
11月9日(火) 相談員研修	相談員事前課題 職務・業務改善 ・リスクマネジメント	猪越・五味・飯島
11月18日(木)	「拒否」という言葉をやめませんか	米谷・池本・安川・齋藤・ 佐藤

(5) ご利用者状況

①今年度、お亡くなりになったご利用者3名。

- ・4月に入院中のご利用者が誤嚥性肺炎にてお亡くなりなる。
- ・8月に麻痺性イレウスによる急性循環不全にてお亡くなりになる。
- ・腹膜播種の為、9月1日に退所し自宅で看取りを行う予定であったご利用者が、腹膜播種にて9/5お亡くなりになる。 ご冥福をお祈りいたします。

②上記、ご利用者の退所に伴い令和3年10月1日より定員を3名削減。

(入所定員72名から69名に削減)

3月31日、現在のご利用者数 84名 (入所69名・通所15名)

③入所ご利用者平均年齢 60歳

生活介護ご利用者平均年齢 58歳 (令和4年3月31日現在)

(6) 保護者の動向

コロナ対策で感染レベルによって面会規制の緩和を行い、東京からの保護者も会議室で直接の面会も実施した。保護者が参加する行事や帰省はすべて中止とした。保護者会からもマスクや手袋など頂いている。

(7) 職員動向

退職 常勤生活支援員 5名
常勤生活介助員 1名
GH世話人 1名
パート職員 1名
常勤生活介助員 1名 Jumpin' へ異動

採用 常勤生活支援員 6名
常勤生活介助員 1名
特定技能実習生 2名 (ベトナム)
GH世話人 1名

◎ 職員の動向としては、依然出入りが激しい状況がみられる。定年での退職者も2名見られた。

(8) 苦情1件

内容：1名の利用者さんだけが特別な扱いを受けている事が嫌である。

- ・毎日、お風呂に入れて時間の変更もできる
- ・飲食物を直ぐに買ってきてもらえる
- ・何も言っていないのにあーだこーだ言われる
- ・デイルームで大きな声を出す

対応策・・棟内で利用者支援に関する合意形成がなされておらず、職員によって対応に差が見られるため、棟会議を開催し利用者個々にあった支援方法の合意形成を図る事とする。

(9) オンブズマン

ご利用者・・16名 (複数回答あり)。

苦情に難する相談、職員の買い物の仕方への不満、白内障手術前後の相談等を主に行った。

職員・・・・19名 (複数回答あり)

新人職員からの聞き取り、職員同士のトラブル、事故についての検証、苦情に対しての聞き取りを主に実施した。

令和3年度 しらかば園事務部

事務部

1. 安全衛生関係

①労働安全

- ・毎月の主任会、職員会にて労働者の健康管理、事故防止の周知を行い労働災害防止に努めたが、業務災害3件が発生した。
 - ※浴室にて利用者にシャワーを掛けようと前かがみになった際に腰を痛めた。(4日以上休業)
 - ※ポータブルトイレを除菌剤で清掃した際に、跳ねた水が目に入った。(休業なし)
 - ※椅子に乗り、居室の棚から衣類を出そうとした際にバランスを崩し、床に手をつき痛めた。(休業なし)
- 会議の際に、利用者の特性等を十分に把握するとともに、周囲への気配り、緊張をもった支援をするよう指示した。
- ・10月に法人全職員にストレス調査票を配布、回収をした。10月に分析を行い、個々のストレス状況結果を配布するとともに、高ストレス該当者には面接指導等の申し出の勧奨を行った。結果、3名の職員が産業医との面談を行った。施設分析においては、部署ごとの状況判定ができた。
- ・有給休暇5日以上取得については期間の後半に集中しており、余裕のある取得が課題であった。

②交通安全

- ・安全運転に対する意識高揚を目的に、12月に茅野警察署交通課の署員の方に来園していただき安全運転研修会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策として、施設の安全運転管理者により職員会の際に研修会を実施した。
 - ・毎月の主任会や職員会での連絡や安全運転度診断チェックシートを全職員に配布して自身の危険に対する気づきを促した。
 - ・令和3年6月 公用車を乗り出す際に隣の公用車に接触(しらかば園敷地内)
 - ・令和4年1月 通勤途中に対向車と衝突(原村中新田)
 - ・令和4年3月 カーブを曲がる際に公用車左後部を建物に擦る(しらかば園敷地内)
- 各事故においてケガ等はなし。

2. 経理関係

①法人会計

- ・予算執行においては、必要性、緊急性、価格等を考慮するとともに、適正かつ安全な遂行に努めた。
- ・第2富士見町グループホームも竣工、9月に引渡となり建設代金の支払い及び必要物品の購入を進めた。
- ・しらかば園においては年度開始時の入所定員72名から、4月に1名、7月に1名死去、8月に1名退所後の死去により、9月1日より定員69名となる。事業収入減に伴う2回の予算補正を行った。
- ・支出において付帯設備や備品等の老朽化に伴う修繕が増えてきている。また、新型コロナウイルス感染防止用の手袋、マスクと等が全国的に金額上昇している。少しでも安価な商品確保に努めた。
- ・預金、現金及びネットバンキング等の適正かつ確実な処理に努めた。

②個人会計

- ・利用者の預かり金については、担当・主任・事務・事務部長・生活支援部長・施設長へのチェック体制により適正な管理に努めている。明細書等の不備等については早めの確認依頼、報告をした。
- ・こづかい明細書の様式を変更して、令和4年度から使用できるようにした。
- ・こづかい精算書に添付する現金・物品受領証明書の様式を変更して、適正に管理できるようにした。

- ・預かり金の管理状況について、郵送(年3回)にて保護者等に確認をいただいた。
- ・富士見町より支給された地域振興補助券(しらかば園住所者)については、個人こづかいとして現金と同様に管理した。

③障がい福祉サービス費、負担金等請求関係

- ・しらかば園においては、利用者死去に伴う定員減により減収となる。共同生活支援は3月より第2富士見町グループホームが開始となり算定を始めた。
- ・障がい福祉サービス費及び自己負担金について、システムや別途作成する帳票、部署間の連絡により間違いのない請求計算を行った。
- ・報酬請求に伴う利用者実績 ※()は令和2年度実績

項目	事業	生活介護	施設入所 支援	短期入所	共同生活 支援	就労継続 支援
令和3年度の開所日		269日	365日	365日	365日	232日
令和3年度末の 定員：人		94	69	4	12	20
1日当たりの 平均利用者数：人		80.2 (83.1)	69.2 (73.0)	(0.9) (0.1)	7.9 (7.8)	15.5 (10.8)
平均障がい 支援区分(6段階)		5.2 (5.2)	5.3 (5.3)	5.0 (5.0)	3.9 (3.3)	- -
福祉サービス費と 利用者負担金の 前年対比：%		96.4	94.8	995.8	100.8	150.4

④工事、修繕、物品購入関係

主たる項目(1回の支払が20万円以上のもの)

竣工、導入月	内 容	金額(円)
令和3年 4月	第2富士見町グループホーム建設 着手金	17,600,000
	西、管理棟の床暖房循環ポンプ及び西棟浴室混合シャワー栓交換	330,000
6月	西棟床暖房の配管漏水改修工事	242,000
	しらかば園内 エアコン清掃及び洗浄 11台	200,750
	非常用発電機 大型バッテリー交換	529,100
7月	南棟浴室 給湯配管漏水改修工事	1,050,500
	南棟脱衣所の物入れ改修工事	308,000
	南棟脱衣所の洗面化粧台入替	247,500
8月	給与計算クラウドシステム導入	404,800
9月	第2富士見町グループホーム建設 最終金	35,200,000
11月	しらかば園下水道の流入物、ゴミ取り柵設置工事	605,000
	第2富士見町グループホームの電化製品一式	429,550
12月	第2富士見町グループホームのゲインテーブル2台及び椅子7脚	327,800
1月	南生活棟、東西棟のボイラー基盤交換	291,280
2月	東1階の居室入口扉修繕(2部屋)	475,860
	新型コロナ抗原検査キット120本、PCR検査キット10セット	282,600
3月	西棟大型乾燥機入れ替え	866,800
	交流ホームの畳、襖及びカーテン取り替え	262,900
	その他として福祉サービス第三者評価として600,000円を3月に支払い	

⑤その他

- ・長野県高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症の自主検査費用助成事業を活用して、感染の危惧があった職員2名のPCR検査費用として助成金26,000円が長野県より交付された。
- ・一般財団法人東京都人材支援事業団より東京善意銀行(東京都社会福祉協議会)を通じて介護物品等の購入助成金を受けた。購入金額の全額助成によりアルミ製車いす2台、プラスチック手袋を140,800円で購入した。

3. 防災、整備関係

①各種点検と整備

- ・危険物施設、電気設備、消防設備、エレベーター法定点検の実施により、不具合箇所については早期に改善をした。
- ・老朽化により南棟浴室の給湯埋設配管が破裂して改修を行った。
- ・非常用発電機の大型バッテリーも経年劣化により起動に支障が生じたため交換した。

②非常時対応

- ・「国土交通省 要配慮者利用施設の土砂災害に関する避難確保計画」について、第2富士見町グループホーム等を追加して富士見町に提出した。
- ・防災倉庫の備蓄用ガソリンの入替を実施した。

4. その他

- ・社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムを使用した現況報告書、社会福祉充実計画を電子提出をした。
- ・独立行政法人福祉医療機構報告システムを使用した決算状況報告書を電子提出した。
- ・手袋、マスク等の感染予防消耗品については金額の高騰、品薄の状態が続いている。保護者会、家族等より物品寄付があり、感謝とともにありがたく活用させていただいた。また、近隣住民、家族及び匿名の方より野菜、お菓子等をいただき利用者に提供した。

医務部

1. 検診

◇ 検診内容

内科検診	月1回	毎月	小林医院
精神科検診	月1回	毎月	富士見高原病院
歯科検診	年1回	6月15日	松本歯科大学病院
耳鼻科検診	年1回	7月21日	富士見高原病院

◇ 総合検診

春季健診	4月15日	胸部レントゲン	富士見高原病院
春季健診	6月7日～9日	身長・体重・血圧・血液・検尿 便潜血 心電図	富士見高原病院
秋季健診	11月8日～11日	身長・体重・血圧・血液・検尿 便潜血 心電図	富士見高原病院

- ・今年度は感染対策を講じて全ての検診を行った。以前は医務室で行っていた検診も、密に配慮し会議室で換気を十分行い、各棟の利用者の方が交わらないよう対応している。
- ・春季健診は新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となった職員がいたため、血液検査と心電図検査については6月に延期し実施した。
- ・精神科検診では血中濃度が高めの方、精神的に落ち着かれている5名の方は内服薬が減量となった。ただ、今までてんかん発作がみられなかった50代、60代の方で痙攣発作がみられ、新たに抗てんかん薬の服用が始まった方が2名いた。年齢と共に利用者の方の身体機能も低下してきているので、引き続きご本人の状況に応じて抗精神薬の減量を相談していく必要がある。
- ・現在小林先生には月に1回の内科検診と利用者の方、職員の健診結果を全て診て頂いている。利用者の方は高齢化に伴う様々な疾患の発症や急な体調の変化をきたされる利用者の方が増えている。上記の現状に対して小林先生からも、現在の内科検診の形式を検討した方が良いとアドバイスを頂いている。今後小林先生にご相談させて頂き、利用者の方をより総合的に診て頂けるような対応を検討していく。

2. 医療機関別通院件数

<医療機関治療状況延べ数>

	令和2年度人数 (実人数)	令和2年度回数 (延べ回数)	令和3年度人数 (実人数)	令和3年度回数 (延べ回数)
小林医院	37	59	22	34
諏訪日赤	3	10	2	10
松本歯科大	3	18	5	17
三井歯科	9	42	9	39
かがやき歯科	13	71	17	78
高原病院心療科	4	4	7	10
〃 内科	30	124	34	152
〃 外科	7	19	5	18
〃 整形外科	8	31	11	29
〃 形成外科	11	32	12	22
〃 耳鼻科	0	0	3	3

〃 眼科	12	34	17	46
〃 皮膚科	18	40	16	39
〃 婦人科	5	7	17	25
〃 リハビリ	0	0	0	0
〃 泌尿器科	7	97	10	86
諏訪中央病院	3	9	5	14
救急外来	18	36	20	29
信州大学 眼科	0	0	1	5
計	190	635	213	659

- ・泌尿器科へ新たに通院が必要になり、服薬治療が始まった方が2名。また、健診で前立腺癌の疑いのある利用者の方、今後精密検査をおこなっていく予定。
- ・白内障で手術を勧められる方が増えている。1名の方は白内障の進行で失明してしまい、信大の眼科へ紹介して頂き全身麻酔で両目の手術を受けた。その後は視力が回復し今まで通りの生活を送られている。また、もう1名の方は諏訪赤十字病院で日帰りの手術を受け、その方も順調に軽快した。ご本人が視力の低下を自覚されない方、また訴えられない方も多い。また、視力低下がわかっても検査すら受けられない方もいるが、利用者の方の変化に注意をし、失明にまで至らないよう最善を尽くしていく。
- ・年齢が上がるにつれ、歯周病が原因で抜歯となる方が年々増えている。歯磨きも難しい方が多く、定期的なメンテナンスが必要だが、マンパワーの問題もあり一部の方しか実施できていない。

3. 園内における傷病

- ・昨年度は皮膚疾患が悪化して、治療や入院が必要となる方が何人も出てしまったため、今年度は冬場の乾燥対策を早めに行い、トラブルは少なかった。また、バルンカテーテルを留置されている3名の方も、今年度は週に1回看護師による膀胱洗浄を行い、詰まりによる緊急の通院はほとんど無かった。
- ・今年度3名の方が亡くなられた。1名の方は、喀痰吸引、経管栄養等特定医療行為指定事業者として喀痰吸引を行っていた。看護師2名・准看護師1名・支援員有資格者3名で対応してきたが、12月に亡くなられたため現在喀痰吸引の必要な利用者の方はいない。

4. 感染症対策

- ・小林先生にご尽力頂き、新型コロナワクチン接種を5月下旬から2回、2名の利用者の方を除き職員も含め接種して頂いた。3回目についても2月下旬に接種をして頂いた。
- ・全国、地域の感染状況に応じた対応フローを作成し、経過とともに内容を変更しながら対応フローに沿って感染対策をおこなった。
- ・発熱や風邪症状のある方については、国から支給された抗原キットを使用し看護師が検査をおこない早期陽性者の発見に努めた。今年度は検査での陽性者は出ていない。今後も万が一の為に検査キットを有効に活用し、陽性者の早期発見に努める。
- ・東京都の感染対策研修会に参加し、その後オンライン訪問もおこなって頂き園内の感染対策についてアドバイスを頂いた。
- ・今年度3月下旬に職員が御家族から感染し陽性となったが、感染前の勤務状況から園内への影響はなかった。

5. 入院状況

令和3年4月～令和4年3月

UK様	4月4日～4月9日	痙攣重責発作	諏訪中央病院
YM様	4月9日～4月21日	右大転子部骨折	富士見高原病院
UK様	4月11日～4月19日	けいれん発作	諏訪中央病院

JM 様	4月14日～5月1日	アレピアチン血中濃度高値 胸水、肺炎	富士見高原病院
OK 様	4月16日～4月21日	胆石の疑い	富士見高原病院
UK 様	5月17日～5月24日	脳梗塞	諏訪中央病院
KT 様	6月29日～7月22日	虫垂炎性腹膜炎	富士見高原病院
KT 様	7月24日～8月6日	腹膜癌の疑い、食欲不振、 吐気、嘔吐	富士見高原病院
KT 様	8月13日～9月5日	腹膜癌	富士見高原病院
KA 様	8月27日～9月8日	心筋梗塞の疑い てんかん発作	諏訪中央病院
TH 様	9月13日～10月14日	左大腿部頸部骨折 人工骨頭手術	富士見高原病院
OK 様	9月25日～10月1日	2型糖尿病、脂質異常症、 肝機能障害	富士見高原病院
ST 様	10月19日～10月26日	顔面右耳介蜂窩織炎	富士見高原病院
UK 様	12月12日～12月23日	てんかん重責発作	富士見高原病院
KK 様	1月12日～1月17日	内痔核根治手術	富士見高原病院
HK 様	1月31日～2月2日	両眼白内障手術	信州大学病院
MT 様	2月8日～2月16日	肺炎・低体温症	富士見高原病院

- ・40代女性利用者の方に腹膜癌がみつき、ご家族の希望で東京のご自宅へ帰り看取られる予定だったが、その直前に富士見高原病院で亡くなられた。コロナ禍でご家族も園職員も面会がままならず悔いの残る最期となった。
- ・コロナ禍で面会ができない状況が多々あり、退院の際も病棟看護師と電話でのやり取りの調整となり、状況把握や退院後の生活の準備が難しかった。

6. 職員健診

35歳以上	年1回	生活習慣病予防健診、女性は2年に1回婦人科検診
35歳以下 夜勤職員	春季総合検診	血液・検尿・便潜血・心電図・胸部レントゲン
35歳以下の夜勤者	秋季総合検診	血液、検尿、心電図
20歳～34歳女性	2年に1回	婦人科検診

7. 職員研修

- ・救急法講習会：12月20日～22日 10名参加
- ・新型コロナウイルスの感染状況により、消防署からの出張研修はおこなっていないということで、しらかば園の看護師が消防署から機材をお借りして職員に講習をおこなった。支援員が変則勤務の為、できるだけ大勢の職員の方に出て頂けるよう3日間設定したが、看護師の体調不良者への対応などで実質2日間となり、思うように受講してもらえなかった。

8. まとめ

- ・利用者の方の年齢が上がるにつれ、慢性疾患の増加、悪性腫瘍、歯の問題など、看護や医療の比重が年々大きくなっている。利用者の方の特性から、早期発見が難しい場合や、治療も通常通り受けられない場合が多々ある。日常の中の些細な変化も見逃さず、他部署と協力し、利用者の方が元気に過ごせるよう健康管理を行ってきたい。また、感染対策ではコロナの感染状況や世の中の動向に沿って、しらかば園に適した対策を模索しながら継続していく。

給食部

ご利用者様の高齢化に伴い、個々のご利用者様にあった食事形態が求められてきている。日々の変化の中で多職種連携し早めにご利用者様にあった食事提供を行った。

昨年度より栄養ケアマネジメント加算を実施している。低栄養リスク別のモニタリング会議を実施することによりご利用者様個々の栄養状態を多職種で共有、検証する事が出来た。摂食・嚥下について今年度も内藤STの指導を受ける事が出来たので、ご利用者様の安全な食事摂取・栄養状態改善に向け素早い対応がさらに迅速に出来るようになってきている。

残念ながら、今年度もコロナ禍であった。中止が続いている「もみじ祭」の雰囲気をご利用者様に味わっていただきたく、行事委員会と協力し「各棟秋祭り」を実施した。ご利用者様のご希望が多かった「jumpin'」の惣菜を選択して頂き、昼食のお弁当と一緒に味わっていただいた。おやつは、不二家の「モンブランケーキ」をお出しし、季節感も感じていただけたと思う。

1、ご利用者様の栄養ケアマネジメント・モニタリングをリスク配分に応じ実施する。

(1) リスク配分については、看護師とともに検討ししかば園のご利用者様は中リスク者、低リスク者とした。今年度は、褥瘡が出来てしまったご利用者様がいたので高リスク者として2週間に1度栄養モニタリングを実施した。その他、リスク配分にかかわらず、支援員から看護師に食事の様子や体調についての相談があり栄養士と検討実施した。

(2) 今年度は、褥瘡が出来てしまったご利用者様がいらしたので、栄養ケア計画変更を実施した。

褥瘡治癒の為に素早く栄養ケア計画を変更し、保護者様への説明と同意を得、ケアを開始できた。栄養補助食品の速やかな提供により、褥瘡の治癒を早める事が出来た。

(3) 中リスクの方は、主任会後に定期的に栄養ケア・モニタリング会議を実施し体重推移、体調変化等日々のご利用者様の様子を反映させ検討できつつあるように思う。

低リスクの方は、棟会議や支援計画モニタリング会議の折に実施できた。会議の実施により、支援員、介助員からご利用者様の栄養状態のみでなく食べ方、摂食量などの情報が寄せられ改善への対応が総合的に出来つつある。

次年度は、ご利用者様へさらに的確な対応が出来る様に多職種で連携していく。

2、栄養ケア・モニタリング会議で出された問題点について、改善に向け多職種で検討する。

(1) ご利用者様の栄養状態のみならず食事全体の問題点(摂食・嚥下、食べ方など)について検討できた。

支援計画モニタリング会議時に栄養モニタリングを実施しているので、多職種の様々な意見、各職種視点からの検討が出来る様になった。この検討結果をさらに専門性の高い内藤STに見ていただき、問題点改善に向け具体的な対応がとれる様になった。

3、低栄養、BMI 低値のご利用者様の速やかな体重増加を目指す対応を行う。

- (1) 低栄養(血清低アルブミン値)、BMI 低値のご利用者様への対応は、看護師に他の疾患がないことを確認、相談したしうえで体重増加に向け食事提供量の増量、栄養補助食品の個人購入提案、購入対応を実施した。

4、日々安定した食形態でのお食事提供の実施。

- (1) 給食受託業者の日清医療食品と協力し、食形態については、食事提供前のチェックでミスがないことを確認してから提供できている。食形態調整ミスは、大きな事故に繋がりにくい。しっかりと確認してからお食事を提供する。問題発生時には検証を確実にし、安全なお食事提供に努める。

5、コロナ禍ではあるが、楽しみのあるお食事提供を実施する。

- (1) コロナ対応が続いているため、以前のように食堂でのお食事提供は実施できていない。日清医療食品の食事企画を実施し、季節感や旅行気分をご利用者様に味わっていただいている。
今年度は、行事委員会と協力し「各棟秋祭り」を実施した。お好きな物を選んでいただく楽しさと、お弁当の提供で季節と行楽気分を味わっていただけたように思う。

清明会共同生活支援事業部

1) グリーンサム

項 目	内 容
1 事業の内容	<p>障害者自立支援法に規定される「障害者地域生活援助事業・障害者地域生活介護事業」を、入居者が地域において日常生活を営むことが出来るよう、当該入居者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じ、下記業務を適切提供、実施いたしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 入居者への食事の提供 ② 金銭管理 ③ 健康管理（健診、通院等も含む） ④ 日常生活上の応談・助言等（苦情解決も含む） ⑤ 諸記録の整備 ⑥ 利用者の就労支援 ⑦ 支援費請求業務 ⑧ 入居者負担金等の受領事務 ⑨ その他入居者の日常生活が円滑に進められるために必要な支援（緊急時対応も含む）
2 従業者等の定数	<ul style="list-style-type: none"> ① サービス管理責任者 1名 ② 世話人 2名 ③ 支援員 2名（兼世話人）
3 利用者の数 茅野市 (東京都練馬区より転出) 男 2名	<p>入居定員 4名 現 員 男性 2名 女性 0名</p> <p>日中活動 Jumpin' (アルバイト) 1名 旅館 () 1名</p>

・入居定員 4名中 現在員 2名を継続する。

・入居者お一人は週 2～3 日旅館でのアルバイトを継続していたが、第二富士見町グループホームへの移行に併せて、Jumpin' の被雇用型利用に切り替えている。

お二人とも Jumpin' の非雇用型利用で、週 5 日通勤しているが、非雇用型の利用であり、十分な収入にはなり得ていない。(お二人とも収入が激減したことでパチンコ依存症の治療にはよいかもしいが、再び闇金の借金地獄にならないよう気をつけたい。) 状況には変わりがない。3 月より第二富士見町グループホームへ移行し、新しい環境での生活をスタートさせ、漸く落ち着いてきている。

2) 富士見町グループホーム

項 目	内 容
1 事業の内容	<p>障害者自立支援法に規定される「障害者地域生活援助事業・障害者地域生活介護事業」を、入居者が地域において日常生活を営むことが出来るよう、当該入居者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じ、下記業務を適切に提供、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 入居者への食事の提供 ② 金銭管理 ③ 健康管理(健診、通院等も含む) ④ 日常生活上の応談・助言等(苦情解決も含む) ⑤ 諸記録の整備 ⑥ 利用者の就労支援 ⑦ 支援費請求業務 ⑧ 入居者負担金等の受領事務 ⑨ その他入居者の日常生活が円滑に進められるために必要な支援(緊急時対応も含む)
2 従業者等の定数	<ul style="list-style-type: none"> ① サービス管理責任者 1名 ② 生活支援員(常勤・専従)3名 ③ 世話人(常勤・兼務9名)
4 利用者の数	<p>入居定員 6名</p> <p>現 員 男性6名 女性0名</p> <p>日中活動 赤とんぼ利用 1名 (富士見町地域活動支援センター)</p> <p>しらかば園生活介護事業利用 5名</p> <p>富士見町 3名 原村 1名 練馬区 1名 新宿区 1名</p>

・入居者定員6名中現員6名を維持している。

・入居者の高齢化に伴い身体介護度が高くなっており、日常的な転倒による骨折事故が相次いでしまった。(世話人の支援の質の向上が求められるところだが、自身の労働条件の追求に終始してしまい、改善の余地がなかった。

・入居者ご本人の希望もあり、富士見町のお二人はしらかば園の利用に来年度より切り替えることとなる。

しらかば園短期入所利用中の方と併せて3名でスタートしている。

3) 令和3年度 清明会共同生活支援事業部 稼働率

(令和3年4月から令和4年3月まで)	延べ日数	実利用日数	利用率
清明会共同生活支援事業部	(実稼働日数365日) 3,650日	(稼働率100%) 2,859日 前年度比+1日	78% 前年度比±0
グリーンサム	(実稼働日数365日) 1,460日	(稼働率100%) 730日 前年度比±0日	50% 前年度比±0
富士見町グループホーム	(実稼働日数365日) 2,190日	(稼働率100%) 2,129日 前年度比-2日	97% 前年度比±0%
第二富士見町グループホーム	(実稼働日数31日) 186日	(稼働率100%) 79日	42%

- ・今年度も、富士見町GHにおいて入居者の長期入院などあったが、全体として利用率は昨年とほぼ変わらない。
- ・新型コロナウイルス感染防止が叫ばれつづける最中、マスクも着けずに町内スーパーマーケット等徘徊して回る入居者の対応に苦慮したが、出先で再三に亘り叱責を受け、GHから出られなくなってしまい、運動不足に陥っている。 対応を検討したい
- ・3月には第二富士見町グループホームが稼働し、世話人、支援員も十分に確保され、順調にスタートしている、しらかば園からの移行予定者も利用できる日を待ちわびている。

特定相談支援事業しらかば園 事業実施報告

今年度も相談支援専門員 2 名体制で諏訪圏域における成人、児童の計画相談を実施した。

当然ながら、登録者数も倍以上に伸び、順調に事業拡大している。

諏訪圏域では特に児童を中心に相談支援事業者の数が不足しており、公益的な見地からして十分にその役割は果たせているのではないと思われる。

今後は、単に相談件数、登録者数の拡大だけでなく、相談支援の内容にこだわり、すわーくらいふと融合することで、総合的な相談支援事業所としてのブランド化を目指して行かれればと考える。

令和3（2021）年度
就労支援事業部「Jumpin'」 事業報告

就労支援事業部
就労支援部長 根村 隆司

1 事業部全体

令和3（2021）年度の就労支援事業部「Jumpin'」の組織について、「主たる事業所」「従たる事業所」の2事業所制となっており、事業内容は以下のとおりとなっています。

事業所	部門名	作業内容	利用形態
主たる事業所	パン製造部門 1号館	パン等の製造及び販売 (委託販売含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用型 ・所外からの通所
	パン製造部門 2号館	災害時用パン缶詰製造 及び販売	
	ジビエ製造部門	ジビエ製品製造販売 及び販売	
	売店業務部門	各種販売業務	
	移動販売部門	移動販売	
従たる事業所	受託作業部門	受託作業	<ul style="list-style-type: none"> ・非雇用型 ・園利用者（実習） ・所外からの通所

施設利用について、「主たる事業所」での令和4（2022）年3月31日現在の登録利用者数は17名（昨年度に1名が他A型事業所へ利用変更、1名が育児休業明けにて勤務開始）となっています（申請上の定員は20名）。また「従たる事業所」での利用者は、2名が所外からの通所利用で、6名が「しらかば園」からの作業実習となっています。なお職員は8名（就労支援部長、主任職業指導員、職業指導員各1名、職業指導員（短時間）1名、生活支援員4名）となっています。

2 事業報告（総評）

一昨年より発生しました「新型コロナウイルス」感染症の流行の落ち着きが見えない中で事業所を運営してきました。昨年来よりイベントの中止や高齢者施設や児童施設等での出店販売見合わせ、長野県全域に「まん延防止等重点措置」の適用から、8月、9月、1月及び2月におきましては事業停止を止む無く行いました。現在でも収束が見受けられない現況におきましては、先行きの不透明さは拭えません。

(1) 主たる事業所（パン製造部門 1号館）

日常的に食するパン等の製造を行っています。感染症の流行拡大防止のため高齢者施設や保育園等への出店販売は行えていない状況でしたが注文販売を中心に事業展開を行いました。イベントにつきましても昨年に続き全てが中止となっています。また年度後半より受注での弁当販売やケーキ等の焼き菓子の販売を行いました。原材料や消耗品、光熱水費の相次ぐ値上げによりコスト増が全体的に大きく影響しています。

(2) 主たる事業所（パン製造部門 2号館）

災害時用のパンの缶詰については広報誌（「手をつなぐ育成会」「働く広場」）での宣伝の影響で多くは無いですが全国より注文を頂きました。

(3) 主たる事業所（ジビエ製造部門）

調理経験のある職員が不在のため、稼働予定が立っていません。

(4) 主たる事業所（売店業務部門）

飲料の他、惣菜や菓子等を販売していますが来客数激減のため、売上の大半は職員や利用者になっていますが順調に推移しています。

(5) 主たる事業所（移動販売部門）

今年度前半では町内公民館を中心に販売ができていました。富士見町の地域振興券の利用も合わせて売上額の約5%に達することが出来ました。しかし年度の後半では「まん延防止等重点措置」の適用のため、稼働は無くなってしまいました。

(7) 受託作業部門（従たる事業所）

一般企業から「ドライフルーツカット作業」及び「冷凍ゆず選別作業」を受託し安定的に作業ができています。

3 重点的取り組みの結果及び課題

重点的な取り組みの結果として主力であるパン等の販売について、本年度は「新型コロナウイルス」の感染拡大が落ち着かないなか、一昨年に及ばないものの販売額の回復は僅かにありました。しかしパンの原材料である小麦粉をはじめ、バター類の乳製品、フィリング、ビニール等の包材、包装紙までもが相次ぐ値上げとなり、利用者の最低賃金も大きく上昇し、パン等の販売価格の見直しに追いついていない状況がありました。

今後の課題として、製造品目や価格の見直しを改めて行うこと、短時間での対面販売を重点的に実施すること、パン等の販売以外でも弁当等の販売に注力していきたいと考えます。

ジビエ製造販売につきましては、次年度は作業を休止する予定です。

災害時用のパン缶詰販売は職員全員が出店及び納品先にて営業を行いつつ、販路の拡大を行いたいと考えます。

受託作業では現状を維持しつつ次年度は利用者が1名増加することに合わせて、受託量の見直しを行い、受託料の増加を目指していきたいと考えます。

次年度は感染症と共存するような環境になりつつも、原材料等の値上げなどの外部要因の影響についてどのように対応していくか模索することになると考えます。そして「Jumpin'」は地域に根ざした事業所であり、地域共生を目的とした利用者支援を行い、地域資源の創出が出来るような事業展開が出来る一年になればと考えます。

文責 就労支援部長 根村 隆司

1. 職員配置

主任就業支援担当者1名（秋山浩樹）、就業支援担当者3名（竹内春菜、田之畑久美子、酒井志麻）、生活支援担当者1名（油井真理子）を配置した。

2. 実施事業内容

①相談・支援業務の実施

○障害者に対する相談・支援

- ・支援対象障害者数 454人 ・相談支援件数 3,196件
- ・就職件数 44件

○事業主に対する助言

- ・支援対象事業所数 163事業所 ・相談支援件数 1,258件

○職場実習等のあっせん件数 48件

○主な相談支援内容

- ・求職活動及び就労に関する相談支援
- ・障害者雇用及び職場定着に関する相談支援
- ・生活困窮者等支援機関への相談支援

②地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

地域における関係機関とのネットワーク形成のための会議等を以下のとおり開催した。

○ハローワーク連絡会議 全4回

場所：諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター

参加機関：ハローワーク諏訪、ハローワーク岡谷、センター職員

議題：障害者雇用の現状と雇用促進について

○ハローワーク・特別支援学校連絡会議 全4回

場所：諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター 他

参加機関：ハローワーク諏訪、ハローワーク岡谷、特別支援学校及び分教室(3校)、

県特別支援学校就労コーディネーター、センター職員

議題：新卒者及び既卒者の就職及び職場定着について

○総合支援センター連絡会議 全1回(3回中止)

場所：諏訪圏域障がい者総合支援センター

参加機関：諏訪圏域障がい者総合支援センター職員等、センター職員

議題：圏域内の障害者福祉資源及び制度等の情報共有、ネットワーク形成

就労支援機関へのノウハウの移転を図るための研修会等を以下のとおり開催した。

○障害福祉行政職員研修会

日時：令和3年6月1日（火）13：30～

場所：諏訪市総合福祉センター

参加者：圏域内6市町村障害福祉担当行政職員、障がい者総合支援センター、
圏域主任相談支援専門員、センター職員 他

内容：障がい者支援に関わる基礎知識及び支援体制について

○就労継続支援A型事業所 利用者及び職員向け研修会

日時：令和3年8月21日（土）14：00～

場所：就労継続支援A型事業所

参加者：事業所利用者、事業所職員、センター職員 他

内容：一般就労に向けた準備及びそれに伴う就労支援

センター同士のノウハウ共有のための研修、交流会等を以下のとおり開催した。

○長野県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 担当ワーカー別WEB会議
全4回

場所：リモート会議

参加者：県内障害者就業・生活支援センター職員

内容：センターにおける支援業務の情報共有

障害者雇用企業間のネットワークの構築を図ることを目的とした企業担当者等との交流会等については、ハローワークと共催で障害者雇用促進セミナーの開催を今年度9月に計画していたが、圏域内での新型コロナウイルス感染拡大等の状況を鑑み中止とした。

③職場定着促進のための在職者の交流活動の実施

日時：令和3年11月6日（土）10：00～12：00

場所：スタジオディライト（諏訪市）

テーマ：コロナ禍における運動不足とストレスの解消

参加者：7人

年2回を計画したが、圏域内での新型コロナウイルス感染拡大等の状況を鑑み、2回の延期と中止を繰り返し、1回のみの実施となった

④ピアサポート活動の実施

センターの支援により就労・定着している障害者等を講師等として招へいた交流会等を以下のとおり開催した。

○精神障害者対象グループミーティング 全3回

場所：諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター及び諏訪市総合福祉センター

内容：精神障害者対象グループワーク

参加者：各回 3～10 人

○就職サポートセミナー

日時：令和3年10月27日（水）13：30～

場所：諏訪圏域障がい者就業・生活支援センター及び諏訪市総合福祉センター、
オンライン

内容：センターの支援により就職した知的障害者及び発達障害者から、求職中の障害者並びに就労支援機関担当者に対して、求職活動や就職後の就労について発表

講師（発表者）：在職4年目のAさん、在職3年目のBさん

参加者：求職中の当事者、就労移行支援事業所の利用者及び職員、就労継続支援事業所の利用者及び職員、県求人開拓員、企業担当者

⑤障害が疑われる生活困窮者等への支援の実施

就労生活支援センターと合同で移動相談会を以下のとおり開催した。

○合同移動相談会

日時：令和3年10月20日（水）13：00～

場所：諏訪公共職業安定所岡谷出張所（岡谷市）

関係機関：生活就労支援センターまいさば岡谷市、諏訪公共職業安定所（岡谷出張所含む）

相談者：4名

相談内容：
・離職後、通院と服薬により安定してきたことでの就職希望
・離職後の通院で診断名が判明し手帳を取得したが、障害受容が困難な両親との関係性で悩む就職希望
・脳梗塞を発症し離職したが、後遺症により就労に身体的制限がある就職希望
・就労希望はあるが、体調面等で準備が整っておらず、今後の活動方法に関して

年3回を計画したが、圏域内での新型コロナウイルス感染拡大等により、関係機関より開催計画の見直しの要請を受け、1回のみで開催となった。

⑥職員の研修等

職員の資質向上のため、以下のとおり研修を受講した。

○独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構主催

甲信越エリア就業支援実践研修（長野県開催、精神障害コース）

日時：令和3年12月1日（水）10：00～

場所：長野市生涯学習センター

内容：講義・演習及び事例検討

○独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園主催

知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会

日時：令和3年12月17日（金）15：00～

場所：オンライン

内容：刑事司法、対象者理解、支援者としてのあり方について

県外で開催予定となっていた研修等に関しては、新型コロナウイルス感染拡大状況から現地での参加をすべて見合わせたため、オンラインでの研修等を活用した。

また、県内で開催される予定となっていた障害者の就労支援に係る研修等についても延期または中止となったため、オンラインによる研修会やセミナー等を中心に出来る限り参加し、支援力向上に努めた。

⑦経験交流会議等の出席

○障害者就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議

日時：令和3年11月26日（金）13：00～

場所：オンライン

出席者：主任就業支援担当者

内容：東京都、千葉県、神奈川県、山梨県、長野県のセンターとの交流・情報交換

○長野労働局主催のワーカー連絡会議 全2回

場所：オンライン

出席者：主任就業支援担当者

内容：国による障害者雇用の状況及び施策等の説明、県及び支援関係機関の施策等の説明、県内センターとの情報共有等